

2 正弦定理と余弦定理



例題 1 正弦定理

$\triangle ABC$ において、 $A=120^\circ$ 、 $B=45^\circ$ 、 $b=3\sqrt{2}$ のとき、 a および外接円の半径 R を求めよ。

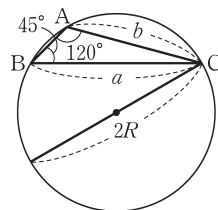
解 正弦定理より、 $\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B}$

$$A=120^\circ, B=45^\circ, b=3\sqrt{2} \text{ を代入して, } \frac{a}{\sin 120^\circ} = \frac{3\sqrt{2}}{\sin 45^\circ}$$

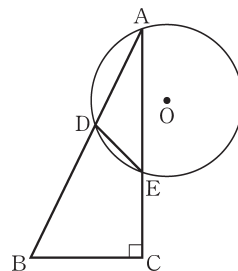
$$\text{よって, } a = \frac{3\sqrt{2}}{\sin 45^\circ} \cdot \sin 120^\circ = 3\sqrt{2} \cdot \sqrt{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = 3\sqrt{3}$$

$$\text{正弦定理より, } 2R = \frac{b}{\sin B} = \frac{3\sqrt{2}}{\sin 45^\circ} = 3\sqrt{2} \cdot \sqrt{2} = 6$$

よって、 $R=3$



- 1 $\triangle ABC$ において、 $A=30^\circ$ 、 $B=45^\circ$ 、 $a=4$ のとき、 b および外接円の半径 R を求めよ。
- 2 $\triangle ABC$ において、 $A=45^\circ$ 、 $B=60^\circ$ 、 $b=6\sqrt{6}$ のとき、 a 、 c および外接円の半径 R を求めよ。
ただし、 $\sin 75^\circ = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$ である。
- 3 $\triangle ABC$ の外接円の半径が3で、 $A=60^\circ$ 、 $B=45^\circ$ のとき、 a 、 b を求めよ。
- 4 $\triangle ABC$ において、 $a=4$ 、 $c=4\sqrt{2}$ 、 $A=30^\circ$ のとき、 C 、 B を求めよ。
- 5 $\triangle ABC$ において、 $A=15^\circ$ 、 $B=105^\circ$ 、 $c=4$ のとき、外接円の半径 R および a 、 b を求めよ。
ただし、 $\sin 15^\circ = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}$ 、 $\sin 75^\circ = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$ である。
- 6 右図のような $\angle C=90^\circ$ の直角三角形 ABC で、 $BC=3$ 、 $AC=6$ である。
点 A を通る半径2の円 O が辺 AB 、 AC と交わる点をそれぞれ D 、 E とするとき、線分 DE の長さを求めよ。



●ポイント

- ① 三角比を扱うときは、 $\triangle ABC$ の3つの角の大きさは A 、 B 、 C で表し、それらの対辺の長さは a 、 b 、 c で表すことが多い。
- ② 【正弦定理】 $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とすると、

$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$$

